特集・旅行台湾年

台湾の注目デスティネーション

宜蘭 癒しの旅

温泉、海、食の魅力が満載

老若男女を問わず人気の海外旅行先、台湾。リピーターとなって各地を巡る旅行者も多いが、これから注目を集めそうなデスティネーションが宜蘭（ぎらん）だ。台北市の中心部から車で1時間ほどの距離。肥沃な平原と美しい海が広がり、温泉や食の魅力にも満ちている。台湾観光局でも外国人旅行者の誘致に向けて、受け入れ環境の整備やプロモーションを促進している。都市の喧騒を離れて、癒しのひと時が楽しめる宜蘭の見所を紹介する。

台北から車でわずか1時間

宜蘭には、肥沃な土地と水源に恵まれた蘭陽平原が広がる。美しい田園風景だけでなく、青い海と海岸線、三方を囲む山々と多様な顔を持つ。宜蘭北部の海岸線は、東北角国家海岸風景区に含まれる景勝地でもある。

温泉でのんびりと（礁溪ロイヤルホテル）

台湾北部

行政区域は宜蘭県で人口約46万人。中心地の宜蘭市は人口約9万5千人。

宜蘭への交通アクセスは、07年1月の北宜高速道路の雪山トンネル開通で格段に向上した。当初は通行車両に規制があったが、現在は大型バスの通行も可能になった。峠を越える必要がなくなり、台北からわずか1時間の距離で結ばれた。観光のさらなる振興、外国人観光客の誘致に期待が高まっている。

癒しのひと時 礁溪温泉

宜蘭市の北側に位置する礁溪温泉は、台北市民にも親しまれている温泉リゾート地。泉質は炭酸ナトリウム泉、無臭透明。美人の湯として入浴後は肌がすべすべになると女性客に評判。ホテル、入浴施設など約100軒が密集し、露天風呂などを備えた温泉リゾートホテルもある。2010年12月には、春秋礁溪渡假酒店（SpringParkJiaoshi-Villa Resort、84室）、礁溪鳳凰酒店（PhoenixHot-SpringHotel、206室）がオープン予定だ。

宜蘭市の南側にある蘇澳冷泉も有名だ。22度以下の低温温泉だが、つかっているうちに体の芯から温まってくる。

古い町並み再現 伝統文化を体感

宜蘭には、伝統文化に触れられるテーマパーク「国立伝統芸術センター」（敷地24㌶）がある。芸能や工芸品が見られるだけではない。50年ほど前の宜蘭などにあった古い街並みを再現した一画があり、旅行者は非日常的な空間に迷い込んだような感覚にとらわれる。

古く福建省から伝承された台湾の伝統的な建築様式や西洋のバロック様式が入り混じる古い街並みには、宜蘭の名物などを販売する店舗が営業し、時間によって通りでは芸能なども披露される。

国立伝統芸術センター

敷地内には、伝統的な建物や街並みの雰囲気などを取り入れたホテル、福泰冬山厝（79室、DONG-SHAN VILLAYILAN）も営業している。

ウイスキー工場見学者に開放

宜蘭では産業観光も楽しめる。「ブラウンコーヒー」などの商品で台湾では知らない人がいない飲料メーカー、キングカー（金車）グループが昨年12月4日、ウイスキー工場（敷地30㌶）を宜蘭にオープンさせた。観光施設を備えた工場で見学者に開放されている。

台湾唯一のウイスキーの自社蒸留工場。宜蘭のおいしい湧き水に着目、人気銘柄に育成しようイヴィラスイート」では贅沢な時間が過ごせそうだ。

宜蘭近海で揚がった新鮮な魚介を使った料理も自慢。6階には、個室（20～40人の収容可能）を備えた中華料理の「紅楼」、活魚を目の前で調理する「ミックスグルメ」などのレストランがある。

ホテル内には、「グランド・フォルモサ・リージェント台北」のオリジナル店として人気のスパ・エステ「沐蘭（ムーラン）」が入店している。

同ホテルのホームページは、http://www.silksplace-yilan.com.tw/jp/

宜蘭に大型高級ホテル開業

宜蘭に高級スイートルームを備えたラグジュアリーホテルが登場した。シルクス・ホテル（晶華国際酒店）グループが昨年12月にオープンさせた「シルクス・プレイス・イーラン（蘭城晶英酒店）」だ。すでに日本人やアメリカ人の旅行者も利用している。日本語会話に対応したスタッフも常駐している。

シルクス・プレイス・イーラン

宜蘭市の中心部に位置する複合型ビルの6～11階がシルクス・プレイス・イーラン。5階以下は、複数の商業施設が店舗を構えるショッピングエリア。

客室数は193室。このうち高級スイートが20室。とくにプライベートガーデンやジャグジーを配した大型バルコニーを持つ「スカ

シルクス・プレイス・イーラン ジャグジー付きの客室も

海や食にも宜蘭の魅力

宜蘭の北部海岸線は国家風景区に指定された美しい海岸線が広がる。サイクリングやマリンスポーツを楽しめるスポットもある。沖合の亀山島（周囲約10キロ）にも上陸できる。軍の施設があり、以前は上陸が制限されていたが、2000年8月から観光利用のために開放、海洋生態公園として整備している。ただ、一般の上陸が認められるのは3～11月の期間。

亀の形をした亀山島

宜蘭は食の魅力にもあふれている。魚介類はもちろん、温泉に含まれる鉱物が味を良くすると言われる礁溪温泉の温泉野菜、一羽丸ごとを塩に漬けて燻製にした鴨の料理、蜜と煮詰めたキンカンなどが有名だ。

◆宜蘭に関する情報は、宜蘭海岸&東北角国家公園（http://www.necoast-nsa.gov.tw/）、宜蘭県政府工商旅遊局（http://tourism.e-land.gov.tw/JP/）まで。

CHINA AIRLINES

50周年でキャンペーン

チャイナエアライン 旅行会社にも特典提供

今年で設立50周年を迎えるチャイナエアラインは、搭乗客に抽選で航空券などをプレゼントする「50周年ありがとうキャンペーン」をスタートさせた。同時に、旅行会社のツアー販売を支援しようと、チャイナエアラインを利用したパックツアーに参加する〝50歳〟の旅行者の代金を割り引くなどのキャンペーン特典を各社に提供している。

ありがとうキャンペーンは、台湾観光局、ハワイ州観光局が協賛。同社の成田出発便の搭乗客を対象に、ホノルル行き、または台北行きの航空券とホテル宿泊券をセットにしてプレゼント。今月16日から12月15日までの期間を3期に分けて抽選を行い、合計60人に賞品を贈る。

チャイナエアラインを利用した成田発台北行きのパックツアーを造成している旅行会社に対しては、「50」をキーワードにした旅行代金の割引特典を提供している。「祝50歳キャンペーン」では1959年生まれの参加者に限って1万円を還元、「祝・結婚50周年キャンペーン」では59年に結婚した夫婦の参加者それぞれに1万円を還元できるようにしている。

同社は59年12月に台北で設立。62年に初の国内定期便台北～花蓮線を、66年に初の国際定期便台北～サイゴン（現ホーチミン）線を就航した。日本との間では、67年に台北～大阪～東京線。81年には台北～東京～ホノルル線も就航。現在、台北と日本の7都市（札幌、成田、名古屋、大阪、広島、福岡、沖縄）を定期便で結んでいる。

旅行会社からの問い合わせは、同社旅客営業部（☎03・5520・0330）まで。

見学できるウイスキー工場

さらなる誘客促進へ

旅行客にプレゼントも

旅行台湾年

台湾観光局が外国人旅行者の誘致に向けて08年から展開しているキャンペーン「旅行台湾年」は、最終年度の2年目に入った。今年は新たな観光イメージキャラクターに、台湾の人気男性アイドルグループ「飛輪海（フェイルンハイ）」を起用するなど、日本に対する各種プロモーション活動を強化。引き続き日本の旅行会社の商品造成を支援するほか、旅行者に対するプレゼントキャンペーンも行う。

台湾観光局によると、08年の訪台日本人旅行者数は前年比6・8％減の109万人。昨年夏以降の世界的な景気後退などが影響したが、09年は航空機の燃油サーチャージが下降、円高などの好材料も出てきた。旅行台湾年のプロモーションをさらに促進し、旅行者の増加を目指す。

観光イメージキャラクターの飛輪海は、これまでイメージキャラクターを務めてきた男性アイドルグループ「F4」と並び、日本人女性の間にもファンが多いことから、広告などへの露出で若い女性層の台湾に対する関心を高めていく。

旅行素材としては従来のテーマに加え、グルメ、温泉、映画・ドラマのロケ地巡りなどのPRを強化していく。グルメでは外国人観光客に人気の屋台料理を、温泉ではマッサージや食事を組み合わせたヘルスツーリズムをPR。ロケ地巡りでは、台湾で昨年大ヒットした台湾映画「海角7号CAPE No.7」が日本でも上映予定であることから、舞台となった台湾南部の墾丁、恒春などのPRを仕掛ける。

旅行者に対するプレゼントキャンペーンは、四半期ごとに内容を替えており、4～6月は、50元（台湾ドル）がチャージされた台北MRT悠遊カード、高雄MRTカード、観光テーマパーク入場無料チケットを提供。事前に台湾観光協会の東京事務所・大阪事務所に申請。パックツアーの場合、旅行会社からも申請できる。

観光イメージキャラクターの「飛輪海」

また、入国百万人目（09年1月1日から）に該当する幸運な旅行者にはショッピングプリペイドカードをプレゼント。100万人目は10万元、200万人目は20万元というようにカードの利用可能額が上がっていく。

訪台旅行を取り扱う日本の旅行会社に対する支援策も、これまで通り実施していく。地方空港発着のチャーター便運航に対する補助金の交付やインセンティブツアーに対する各種特典の提供などを実施することで、商品造成、送客をサポートする。

ランタンフェスティバル

宜蘭の夜に熱気

台湾観光局などが主催する09年の「台湾ランタンフェスティバル」が2月9～22日、宜蘭県の宜蘭運動公園で開催された。干支の丑（うし）をはじめさまざまな形をした大小の花燈（ランタン）、色とりどりの提灯が幻想的な空間を演出した。ランタンフェスティバルは90年以降、地域の活性化を目的に台湾各地で巡回開催されている。宜蘭では14日間で、外国人旅行者を含む300万人以上の来場者を記録した。

提灯に願いをかける（２月９日）

旧暦1月15日の「元宵節」に提灯を灯す風習を大型イベント化したもの。丑をモチーフにしたメーンランタンは、高さが18㍍に及び、田を耕す水牛の力強さに景気好転への願いを込めた。このほか住民や企業が作成した手作りのランタンも数多く展示。昨年12月に台北市立動物園にパンダが到着したことから、パンダをかたどったランタンも多かった。

初日のオープニング式典には、馬英九総統も駆けつけ、初日に集まった約10万人の観客にあいさつした。芸能ステージには、日本人のよさこいソーラン節チームがパフォーマンスを披露するなど、日台交流の機運も盛り上げた。

「旅行台湾年」プレゼントキャンペーン実施中

台湾観光局

http://taiwan.net.tw

台湾観光協会東京事務所
電話03-3501-3591　FAX03-3501-3586
〒105-0003　東京都港区西新橋1丁目5-8　川手ビル３階

大阪事務所
電話06-6316-7491　FAX06-6316-7398
〒530-0047　大阪市北区西天満4-14-3-6F

台湾観光トピックス

総統府で歴史を学ぶ

総統府（台北市）

政治の中枢である「総統府」の参観は、日本人旅行者にとって興味深い体験となるはずだ。日本統治時代の1919年に建てられたルネサンス様式の建物で、かつては「台湾総督府」だった。１階部分には展示施設があり、台湾の歴代総統のゆかりの品々、例えば、故・蒋介石総統が使ったその地位を象徴する「統帥権杖」をはじめ、印鑑、軍服などが見られる。日本統治時代の歴史を紹介する資料も多い。平日に公開している１階部分に加え、毎月１回を基本に、正面ロビーや２階の会議室、レセプションルームも公開している。日本語のボランティアガイドも常駐。入場無料（旅券提示や手荷物検査などの手続きあり）。

◇１階開放日：月～金曜（祝祭日除く）午前９～12時（入場11時半まで）
◇全館開放日：09年４月12日、５月３日、６月７日、７月５日、８月２日、９月６日、10月10日、11月８日、12月６日、時間は午前８～午後４時（10月10日は午後12～４時）

参観の詳細は、http://www.president.gov.tw/

高雄でもう１つの〝五輪大会〟

今年７月16～26日に「2009年ワールドゲームズ高雄大会」が高雄市で開催される。ワールドゲームズは、４年に１度、夏季オリンピックの翌年に開かれる非オリンピック種目の国際スポーツ大会。フリークライミングやスカッシュ、ラグビー（７人制）など31競技に、日本人選手を含む約100カ国・5000人が参加する。メインスタジアムは新たに建設された施設で、設計は世界的に著名な日本人建築家、伊東豊雄氏が担当した。高雄市では、大会開催を契機にした日本人観光客の増加に期待している。

大型バスターミナルが６月オープン

台湾最大規模のバスターミナルが６月末、台北市内に正式オープンすることになった。中・長距離バス用の「国道客運台北ターミナル」で１日当たり2000台のバスが出入りするという。チケットカウンター、運行・配車状況を示すパネルなどが整備され、旅行者の利便性が向上。施設は映画館、ホテルも併設する。

バスターミナルには、MRT台北駅「南４出口」または「出口６」が近い。

ホームページは、http://www.busad.org.tw/